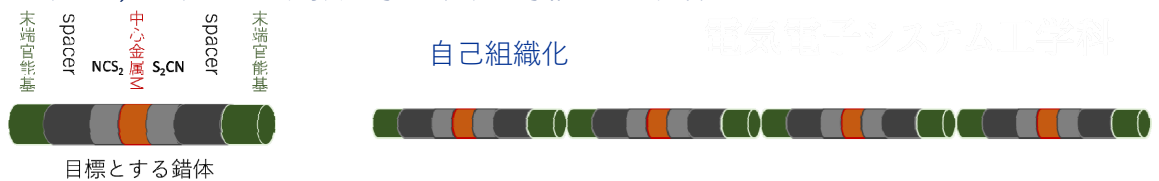


サブナノスケールでの構造体構築

大きさ ≤ 1 nm (百万分の1 mm)の空間や隙間をもつ規則的な構造体を提供し、このような小さな空間を物質の識別・貯蔵，輸送，反応の場を利用

目的

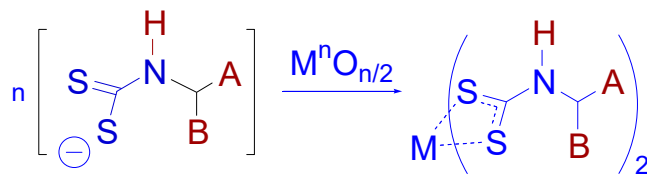
分子の間での相互作用可能な官能基を導入した錯体の自己組織化により1次元から2次元，3次元の周期的・規則的構造を実現



手法

錯体には必ず金属と結合を形成するための官能基が必要，それに加えて上の目的に適した官能基を導入することは通常困難である。

⇒ 新しい錯体合成法の開発（特にジチオカーバマート錯体）



実現したサブナノスケールの構造体の例

